

# 平和文化



2017. 3 No.194



公益財団法人 広島平和文化センター  
Hiroshima Peace Culture Foundation

〒730-0811 広島市中区中島町1番2号  
TEL(082)241-5246(代表) FAX(082)542-7941 E-mail:p-soumu@pcf.city.hiroshima.jp  
平成29年(2017年)3月/年3回発行 [URL]http://www.pcf.city.hiroshima.jp/hpcf/

## 国連で核兵器禁止条約の制定に向けた交渉会議が始まります

昨年(2016年)の十二月二十三日に、国連総会は核兵器を非合法化して廃絶することを目指し、今年三月と六・七月に「核兵器禁止条約」の制定に向けた交渉会議を開催すると定めた決議案を賛成多数で採択しました。核兵器の法的禁止は「核兵器のない世界」への重要な転換点になり得るもので、被爆者の切なる願いの実現への第一歩を踏み出すものと期待されています。

### 全ての国連加盟国に参加を要請

平和首長会議の松井会長(広島市長)は、決議採択直後に、公開書簡で核兵器保有国や核の傘の下にある国を含む全ての国がこの交渉会議に積極的に参加し、真摯な姿勢で「核兵器禁止条約」の制定に取り組むよう要請するとともに、加盟



都市にはこのメッセージを広く伝えてもらうよう依頼しました。

### 公開書簡(抜粋)

「こんな思いを他の誰にもさせてはならない」と訴えてきた広島・長崎の被爆者の切実な願いに対し、国際社会の多数派はこの決議をもってようやく心える形となりました。超党派組織である平和首長会議は、この歴史的な決議を心から歓迎し、全ての国に対し、この会議に積極的に参加し、真摯な姿勢で議論に取り組みよう要請します。

現存する一万五千発以上の核兵器のほとんどは広島・長崎に投下されたものとは桁違いの威力を持っており、アメリカとロシアがその九〇%以上を保有しています。それらは都市と人間に容認しがたい脅威をつきつけています。核保有国は、かつてないほど世界の紛争地域における直接的な軍事衝突に近づいており、ウイリアム・ペリー元米国防長官が「核兵器による大惨事が起こる可能性は冷戦時よりも高い」と評する事態になっ

ています。

こうした危険な状況にありながら、世界の安全保障体制は、相互不信を背景に「核抑止力」という核兵器使用の脅しとそれに伴う言語に絶する恐怖にいま大きく依存しています。しかし、核抑止政策は、現在の安全保障の課題に対して有効な解決策を提供することはできません。核兵器は、テロの防止や、テロへの対処の役には立たず、むしろその存在により、新たな使用のリスクを日々高めています。

また、国際情勢が混迷を深め、不透明性を増す中で、経済・外交両面で保守的・排他的な考え方が広がっています。そうした状況の中にあるからこそ、各国が違いを乗り越えて共通価値を創り出す粘り強い対話と協力により問題を解決していくことが肝要となります。核兵器廃絶をめぐる議論も例外ではありません。今回の決議では、ほとんどの核保有国と「核の傘」の下にある国々は決議に反対しましたが、国際社会の多くの国々が抱く切実な危機感を軽視すべ

## 目次

国連で核兵器禁止条約の制定に向けた交渉会議が始まる……………	1	平和首長会議国内加盟都市会議に合わせた原爆展開催……………	8
核兵器禁止条約制定に向けた交渉会議までの平和首長会議の動き……………	2	広島・長崎講座開設大学への支援/「原爆体験記」など研究成果を発表/広島大学と包括的連携協力に関する協定を締結……………	9
平和首長会議事務局が海外からインターンを受け入れ……………	3	アメリカ議会図書館などでの写真資料の収集/……………	
被爆体験記「入市被爆し 原爆地獄を歩く」(浅野温生)……………	4	平成29年追悼平和祈念館企画展「原爆体験記 ヒロシマ原点の記録—その2」……………	10
被爆体験記の執筆をお手伝いしています/ 県外海外在住被爆者証言ビデオを収録……………	5	平和記念資料館からのお知らせ/被爆体験の継承にご協力を……………	11
米国でのヒロシマ・ナガサキ原爆展/ウェブ会議システムによる海外への被爆体験証言……………	6	「姉妹・友好都市の日」記念イベント/ヒロシマ・メッセンジャー決定……………	12
国連軍縮フェロウズの受け入れ/……………		国際交流・協力の日2016/「ひろしま留学生基金」にご協力を……………	13
ヒロシマピース ボランティアに新しく38人が加わりました/……………		「放射線が人体に与える影響について」(広島大学原爆放射線医学研究所長 松浦伸也)……………	14~16
第6回平和首長会議国内加盟都市会議総会の開催及び日本政府に対する要請文の提出……………	7		

### 核兵器禁止条約 制定に向けた交渉 会議までの平和 首長会議の動き

はありません。核保有国を含めすべての国が交渉に参加することによって信頼醸成と建設的関与の機会が生まれ、国際的な緊張緩和へとつながるでしょう。核保有国及びその核の傘の下にある国々には新たな発想と果敢なリーダーシップを期待します。我々は、ニューヨークの国連本部で開催される会議の場において、各国代表が協力的な対話を積み重ね、政治的な立場や意見の相違を克服することで、核兵器のない世界に大きく歩を進めることを要請します。

(平和連帯推進課)

国連で核兵器禁止条約制定に向けた交渉開始を定める決議が採択されるまでには、いくつかの段階を経なければなりませんでしたが、平和首長会議は、それぞれの節目において、様々なアピールを行い、メッセージを発しました。

#### 「公開作業部会」

昨年二月、五月、八月と三回にわたってスイス・ジュネーブの国連欧州本部で、核のない世界実現に向けた法的措置等を議論することを目的とする「多国間核軍縮交渉の前進に関する公開作業部会」が開催されました。平和首長会議はそれぞれの会議の前に、全ての国連加盟国に対し、積極的な参加と核兵器廃絶に向けた建設的な議論を要請するとともに、国連に対しては平和首長会議の取組への支援を呼び掛ける公開書簡を發出しました。

## 二〇二〇年までに 二万都市加盟達成を

平和首長会議のリーダー都市の二つである米國・デモイン市のカウニー市長が今年二月の全米市長会議で協働を呼び掛けました。



全米市長会議として、一貫して核兵器廃絶を訴えてきたという実績

をいかに活用し、米国政府を交渉のテーブルに導き、軍事費を人々が真に必要としている事業のための支出へと転換できるかが我々が抱える課題です。皆様ぜひお願いしたいのは、私や七千人余りの市長の仲間となり、二〇二〇年までの二万都市加盟という目標の達成に力をお貸しいただきたい、ということなのです。そして、貴市において、核兵器の人道的影響・財政上のコストについて、核兵器国間で戦争の危険性が高まっていることにつ

いて、また、世界の核兵器廃絶交渉にアメリカが誠意を持って対応することが緊急に求められていることについて、啓発活動を行っていただきたいと思います。我々市長には、市民の安全を守るといふ基本的な責任があります。核兵器の問題について、トランプ大統領には、我々市長の意見に耳を傾け、我々が戦争よりも希望、夢、次世代の可能性に力を注げるよう支援してもらいたいと思います。

(平和連帯推進課)



公開作業部会：事務総長のスピーチ



公開作業部会：被爆の実相を紹介するブース

併せて、二月会合には小溝事務総長（本財団理事長）が、五月会合には松井会長（広島市長）が出席して、全ての国が対立構造に立つのではなく、相互理解と多様性を尊重する中で議論し、共に核兵器廃絶を明確に決意する環境を創出すべきだと訴えました。

八月会合において、核兵器の法的禁止のための速やかな交渉開始を求める多くの非核兵器国

と、安全保障上の懸念により法的禁止交渉は時期尚早とする核の傘の下にある国々との隔たりは大きく、最終報告書の採択まで非常に時間がかかりました。公開セッション終了後の八月十九日に「二〇一七年に核兵器禁止のための法的拘束力のある文書を交渉するため、全ての国家、国際機関、市民社会に開かれた会議を開催することを広範な支持を持って勧告することなどを盛り込んだ最終文書が三分の二近い賛成により採択され閉幕しました。

#### 【国連総会第一委員会】

昨年十月にニューヨークの国連本部で開催された国連総会第一委員会に合わせ、平和首長会議は核兵器保有国と核の傘の下にある国々に対し、メッセージを發出しました。一九六三年のケネディ・フルシチョフによる



公開作業部会：被爆樹木贈呈式の会長のスピーチ



部分的核実験禁止条約への合意や、一九八六年のレーガン・ゴルバチョフによる核軍縮と中距離核戦力全廃に関する話し合いを例に挙げ、勇気と英知を結集し、果敢なリーダーシップを発揮して、核兵器に依存しない安全保障を検討するよう要請したのです。

同委員会で核兵器禁止条約の交渉開始を求める決議案は賛成多数で採択されました。平和首長会議は全加盟都市に対して、核廃絶を願う被爆者の切実な訴えの実現を目指す超党派の平和首長会議の果たす役割の大きさを改めて訴え、自国の為政者に交渉に積極的に参加し、議論を前進させるよう働き掛けてほしいと呼び掛けました。

【国連総会】  
 昨年十二月の国連総会において賛成多数で採択された「核兵器禁止条約」制定交渉開始決議のポイントは、①本年の三月、六月にニューヨークで、核兵器を禁止する法的措置について交渉が行われる ②会議は、多数決で採択される国連総会の手続きに則って行われる ③会議は、市民社会代表の参加と貢献を得ながら開催される、というものでした。

### 交渉会議に向けて

平和首長会議は、交渉会議は核兵器廃絶への大きなステップになるものと考えており、まずは、三月に開催される交渉会議での議論が前向きに進むよう後押しするため、核兵器保有国や核の傘の下にある国を含む全ての国に対し、会議に積極的に参加し、真摯に取り組みよう求める公開書簡を發出しました。同時に、全ての加盟都市に対し、その動きを伝え、自国の政府に対して働き掛けるよう呼び掛けました。

三月の会議には、小溝事務局長が出席し、核兵器廃絶の実現を願う七千二百の加盟自治体の市民やNGOの声が会議での議論に反映されるような様々な働き



交渉会議に向けた準備委員会(2017年2月)

掛けを行う予定です。七月には、松井会長が出席し、世界の為政者が核兵器禁止条約を核兵器廃絶に向けての現実的なアプローチとして認知し、その制定に向けて、立場や意見の違いを乗り越えて取り組むよう訴えるほか、各国政府やNGO関係者との面会を通じ、平和首長会議との連携・協働を呼び掛けていきたいと考えています。  
 (平和連帯推進課)

### 平和首長会議事務局が海外からインターンを受け入れました

平和首長会議では、平成二十六年度から、海外の加盟都市の若手職員等をインターンとして広島に招聘し、事務局の業務に従事してもらう取組を行っています。平成二十八年度は、七都市から七人をインターンとして受け入れました。

インターンには母国の加盟都市の情報更新や未加盟都市の調査・加盟要請のほか、新たに加盟した都市の認定証の作成手続きなど事務局の様々な業務を体験してもらいました。一方、インターンからも、事務局員に対

国	都市名	人数	期間
ドイツ	ハノーバー	1	H28. 5.26~H28. 6. 8
ロシア	ボルゴグラード	1	H28. 6.16~H28. 6.29
ニュージーランド	ウェリントン	1	H28. 7. 4~H28. 7.15
ブラジル	サントス	1	H28.11.28~H28.12. 9
アメリカ	デモイン	1	H29. 1.11~H29. 1.23
フィリピン	モンテルバ	1	H29. 1.26~H29. 2. 8
フランス	マラコフ	1	H29. 2.13~H29. 2.24

し、自らの都市の平和の取組を紹介してもらい、相互理解と連携強化を促進することができました。

また、広島平和記念資料館、平和記念公園、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館及び放射線影響研究所の見学に加え、被爆体験講話の聴講、高校生との意見交換なども実施し、被爆の実相への理解を深め、平和への思いを共有してもらいました。

各インターンは帰国後、講演や青少年への平和教育を行うなど、広島で学んだことを基に核兵器廃絶に向けた活動を行って



ピースボランティアから原爆死没者慰霊碑についての説明を受けるインターン



高校生が制作した平和を願う書を受け取ったインターン

います。事務局では、このインターンシッププログラムを通じて、核兵器のない平和な世界の実現を願うヒロシマの心が世界に広まることを期待しています。  
 (平和連帯推進課)



**プロフィール**  
 [あさの よしお]  
 元中国新聞記者。運動部長、文化部長、編集局次長、局長職を経て監査役で定年。現役時代の昭和40年、「ヒロシマ20年」の長期連載企画の取材班のメンバーとして、日本新聞協会賞を受賞。昭和57年、被爆者代表としてキリスト教団体の招きでイタリアを訪問した。85歳。中国新聞社顧問。

被爆体験記

入市被爆し  
 原爆地獄を歩く

本財団被爆体験証言者  
 浅野 温生

草取り作業中に被爆

あの原爆がヒロシマに落とされた時、私は県立広島二中の二年生でした。「あの日」の前日・八月五日は、建物疎開作業のため、今の平和記念公園の南寄り本川べりにいました。そして翌六日、一日交代で建物疎開作業に従事していた一年生三百二十一人と、引率の先生四人が原爆の犠牲となったのです。

六日、私たち二年生は、東練兵場の芋畑の草取り作業でした。現場は爆心地から約二・一キロメートル。爆風で全員が吹っ飛ばされ顔や腕などにひどいヤケドをしました。還暦を迎えた年に「被爆体験を書き残しておこうや」と、八十八人の手記をまとめて本にしています。

被爆の瞬間については「写真のフラッシュを浴びたような」「雷が落ちたような」「オレンジ色の光のジュウタンを敷いたような」と、表現も様々でした。体ごと吹っ飛ばされて、気が付いたら、友達の顔や手が赤くズルむげになっているので、「お前、どうしたんなら」「お前こそ」と言い合っているうちに、自分のヤケドの痛みに気が付いたと書いています。

広島二中原爆死没者慰霊祭（平成27年8月6日）で追悼の辞を読む浅野さん（被爆70周年記念事業「原爆死没者慰霊式典の記録（広島市）より」）



呉軍港沖で、キノコ雲を見る

被爆体験を語るはずが、人ごとみたいな記述となっているのは、原爆が投下された時、私が広島にいなかったからです。

六日は芋畑、七日は建物疎開と授業がないので、私のお袋が「蒲刈のおいちゃん」の所へ行って、さつま芋でももらってきてくれんか」と言うので作業をサボって、六日朝午前七時広島港発の船で瀬戸内の島へ向かう途中でした。

呉軍港周辺の島影には、爆撃で大破、沈没した戦艦や航空母艦が無残な姿をさらしており

「これが戦争なんだ」と悔しい思いで見えていたら、フラッシュのような閃光が走りまわりました。

何だろうかと空を見上げたらアドバルーンのようなものが、ピンクやオレンジ色にキラキラ輝きながらスーッと空に昇って行きました。後を追うように積乱雲が空いっぱいを覆っていきましました。

船内では「火薬庫か、ガスタックが爆発したんだろうか」などという声飛び交っていましたが、一時間前に広島港を出たばかりだし、まさかB29の空襲、まして原爆など、想像すらできませんでした。島に着いて祖母に「呉沖で物凄い大爆発を見たんよ」と話していたら、祖父が役場から帰って来て「広島は全滅らしい。広島隣の村長さんから『これから救援に行く』という電話があった」と話してくれました。

その夜は祖父宅に一泊、翌七日、対岸の呉線川尻駅から下り列車で、広島へ帰りました。広島から来る上り列車は、大ヤケドやケガ人で満員でした。広島行きの列車は、何度も臨時停車しながら広島前三つ手前の矢野駅まで着きましたが、ここから先は運転中止となり、広島自宅までの一二、三キロメートル

は歩きました。

幽霊の行列

途中、広島から逃げて来る被災者の群れが絶えまなく続き、大ヤケドの体に焼け残った衣服をまとい、前に突き出した両手の先から、ポロ切れのようなヤケドの皮膚を垂らした被爆者たちは「幽霊の行列」そのままでした。

途中の民家は、広島が近づくにつれ、半壊から全壊へと被害が大きくなり、爆心地から二・三キロメートルの我が家も、柱は折れ、壁は崩れ、タンスや襖もメチャメチャ、一、二階の屋根瓦は巨人が引っかき回したようになっていますが、母親と幼い弟妹は奇跡的に無事でした。

翌八日、爆心地を歩く

当時、空襲などの非常時の際は、学校に連絡することになっていたのですが、翌八日、約四キロメートル離れた二中まで歩きました。門柱には「死体収容所」の張り紙がしてあり、グラウンドには三十余りの死体が転がっていました。校舎は全焼して跡形もなく、先生らしい姿も見えないので、好奇心に引きずられて市の中心部を目指しました。



あの頃の私たちは、原爆のゲの字も知らず、放射能などと言う言葉も知識も無かったので、何の不安も持ちませんでした。

途中の惨状は、筆や言葉では説明できないほどひどいもので今でも忘れられない光景が幾つかあります。原爆ドームに近い相生橋の傍では、爆風で脱線した電車が丸焼けとなっており、即死状態だったのか、座席らしき所に、四、五人分の白骨が並んで残っていました。

また近くの防火用貯水槽では数人の焼け焦げた死体が、箸立ての箸の様に立ったまま焼け死んでいました。そして数万戸もの大火災で、貯水槽の水も蒸発底の方に残った水につかった膝から下だけが生身でした。

鬼気迫るこの場面を思い出すと、記憶の中の色が抜け落ちて白黒フィルムみたいになってしまつたのです。

**被爆証言の動機**

私が被爆証言をする気になったのは、数年前、テレビを見ていたら、平和記念公園を訪れた外国人観光客が「ここが公園でよかったですね。人が住んでいたら、もっと被害が大きかったでしょう」と話しているのを聞いたからです。

私は、新聞記者時代に何度も原爆・平和報道に携わり、被爆者の訴えを活字で代弁、伝承してきたつもりでしたが、数少ない「生き残り証人」の一人として自分の言葉でも語り継ぐべきではないかと、改めて思ったわけです。

第二次世界大戦が終わって七十二年経とうとしている現在も、世界の核保有国が貯蔵している核爆弾は計一万五千四百発と言われています。そしてイスラム過激派や中東での無差別テロは今も跡を絶ちません。こうした狂気集団が核を入手したら、考えるだけでゾッとします。昨年五月、オバマ大統領が初めてヒロシマを訪れ、原爆慰霊碑に献花しました。世界に大きな影響力を持つアメリカ大統領のヒロシマ訪問が核廃絶への大きなうねりとなるよう念じながら、これからも被爆体験の証言活動を続けたいと思っています。

**被爆体験記の執筆をお手伝いしています**

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館では、被爆者の高齢化が進むなか、「被爆の記憶を体験記に残したいけど、自分ひとり



聞き取りの様子

では文章にまとめられない」という方のために、被爆体験記執筆補助事業を行っています。この事業は祈念館職員が自宅等に出向いて、被爆体験を聞き取り、体験記としてまとめるもので、平成十八年度から実施し、平成二十七年年度までに百十六人の聞き取りを行いました。平成二十八年度は十三人の聞き取りを行い、順次、被爆体験記を完成させ、館内で公開しています。また、体験記は企画展やホームページ掲載、多言語語化、公的機関への提供等に活用しています。

被爆の体験は昨日のことのように脳裏から離れることがなく、応募者は被爆当時の悲惨さを記憶の奥から絞り出すように語られます。今まで心の奥底に秘め

ていた思い出したくない体験を初めて話される方も多く、特に若い世代に体験を伝え、二度と繰り返してはならないという強い使命感を持って、応募されています。

今回、執筆をお手伝いさせていただいた体験記から、藤本紀代子さんの体験記(抜粋)をご紹介します。

藤本さんは、四歳八か月の時に東観音町の自宅(爆心地から約一・二キロメートル)で被爆しました。

……母と祖母は片付けを、幼い私は軒下でままごとをしていました。突然、ピカッと光った途端に、2階建ての家が一瞬で潰れました。何が起きたか全く分かりません。母が、崩れ落ちた屋根を踏みながら、「紀代ちゃん、紀代ちゃん」と私を捜しに来てくれました。母は家の裏の納屋に薪を運んでいる最中だったため、家の下敷きにならずに済んだそうです。周囲は真っ暗となり、しばらくすると一帯が燃え始めました。母が「あなた、よう生きとったね。よう瓦の下敷きにならんかったね」と言い、私は母にしがみつきました。火が迫り来る中、誰かの「川へ行こう」という声を頼りに必死で

逃げました。

母におんぶされて逃げる途中、家の下敷きになって頭と手だけが外に出た状態の男性が、「奥さん助けて!」と言いました。私は、「お母ちゃん、助けてくれ言いよる」と母に言いましたが、既に火に包まれています。「お母ちゃん助けてあげんね」と言うので、助けたいけど自分たちが逃げないかどうか目をつぶっていると言われました。……

当館では、この事業によるものを含め、現在、約十三万五千編の被爆体験記を公開しています。

(原爆死没者追悼平和祈念館)

**県外海外在住被爆者証言ビデオを収録しました**

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館では、国内(県外)や海外で生活されている被爆者の証言を収録しています。

平成二十八年度は、国内では、山口県(四人)、岡山県(二人)、島根県(一人)、鳥取県(一

人)、愛媛県(六人)、高知県(一人)、香川県(一人)在住の被爆者を、海外では、韓国(四人)在住の被爆者を収録しました。

「駅のホームから待合室へ移動しようとした人が戸をあけて『あっ』と言って出した足を引っ込めました。みんな『何なに』と言ったら、そこにあるのは、生きているのか死んでいるのか分からないような人たち、うめき声だけが聞こえる中に死体の山がありました」

「お前そうとうやられとると、シャツがビビビしていると思っ歩いてたのですが、改めて見ると真黒なっていました。のが背中や皮膚だったので、両側にビビビしていました」

「やけどをしているから注射も針をさすところを捜すのに時間がかかるんですよ。腕とかにできないから…急所だけちょっとちょっと処置したら『また明日来るように』と言って十分にできなくて残念に思いました」

「市内中を歩きまわり、夕方になったころ、軍人たちがブリキの上に死体を一体ずつのせて火葬していました。顔の区別がつかないほどになっていて、名札を見て弟だと分かりました」

「これは、この度収録した証言の一部です。証言は、被爆時の状況のほか、県外や海外へ移られた時の状況、

その後の生活についても語っています。

収録した映像は、編集後、館内及びホームページで公開するとともに、平和学習資料として貸出しをする予定です。

今後、国内・国外を問わず、貴重な被爆証言を少しでも多く収録し、後世に伝えていきたいと考えています。

(原爆死没者追悼平和祈念館)

### 米国でのヒロシマ・ナガサキ原爆展の開催

平成二十八年度の「ヒロシマ・ナガサキ原爆展」は、昨年度に引き続き、核超大国である米国で、シカゴ市にある「日本文



原爆展会場で折り鶴を折る来場者

化会館」において十月一日から二十九日まで開催しました。

会場には、広島・長崎の被爆の実相を説明したパネル三十点のほか、動員学徒として作業中に被爆し、犠牲となった中学生の焼けた水筒などの遺品や、佐々木禎子さんの折り鶴など、資料十七点を展示するとともに、折り鶴を折るコーナーも設置しました。

十月一日には開会式が行われ、広島平和記念資料館の志賀賢治館長や、在シカゴ日本国総領事館の柳井啓子首席領事による挨拶の後、志賀館長、柳井首席領事を始めとする関係者によるテープカットなどが行われました。

開会式終了後、多くの人が被爆資料や写真パネルに見入っており、来場者の一人は、「遺品を見て、原爆の非人道性を改めて認識できました」と、普段目にする事ができない資料を直接見ることで、原爆の恐ろしさを心に刻んでいました。

また、二十九日の閉会式では、被爆体験証言者である寺本貴司さんが、地図や絵などで構成されたスライド資料を効果的に使用して被爆体験証言を行った後、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館所属の桂幾子さんと山本

真由美さんによる被爆体験記の朗読会が行われました。

来場者は皆熱心に証言や朗読に聞き入っており、終了後には、「証言を聞き、今後、平和を維持するために取り組んでいくことが重要だと感じました」との感想も聞かれました。

オバマ前大統領ゆかりの地シカゴ市において、「あの日、きのこ雲の下で何が起こったか」を伝えることができました。

(平和記念資料館 啓発課)

### ウェブ会議システムによる海外への被爆体験証言

「被爆の実相を世界に」

平和記念資料館では、海外にも広く被爆の実相を伝え、核兵器廃絶に向けての国際世論を醸成するため、インターネットを通じて海外と広島を結び、被爆体験証言を行う「ウェブ会議システム」による海外への被爆体験証言を実施しています。

平成二十八年度(三月十日現在)は、核兵器保有国のアメリカやロシアを含む計七か国で八回実施しました。現地の場合は学校や独立行政法人国際協力機



構（JICA）事務所など様々で、海外にいる計四百人以上の人々が被爆者の声に耳を傾けました。事前に質問を準備したり、関連イベントを行う団体もあり、参加者の関心の高さがうかがえる有意義な会議となりました。

当館は今後もウェブ会議システムなど様々なツール・媒体を活用し、積極的に国内外へ被爆の実相を伝えます。

（平和記念資料館 啓発課）

## 国連軍縮フェローズの受け入れ

軍縮の専門家を育成する目的で国連が主催する「国連軍縮フェローズ計画」の研修生（フェローズ）を、昨年十月四日（火）から三日間、広島に受け入れました。

国連軍縮フェローズ計画は、国連が昭和五十四年（一九七九年）から実施している研修事業であり、昭和五十八年（一九八三年）から毎年広島で受け入れを行い、これまで八百人以上が来広しています。

今回は、二十五か国の若手外交官等二十七人が参加しました。一行は四日（火）の広島到着後、歓迎レセプションに出席し、

## ヒロシマピースボランティアに新しく三十八人が加わりました

平和記念資料館では、国内外から広島を訪れる人々に対して、ヒロシマピースボランティアによる、当館の展示解説や平和記念公園内の慰霊碑等の解説を行っています。

平成二十八年度、増加する来館者に対応するため、三年度にボランティアの新規募集を行いました。応募者は、十月から四か月をかけて、原



研修の様子

爆体験証言者など地元参加者と交流を深めました。

五日（水）は、広島平和記念資料館、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館、原爆ドーム等を見学するとともに、原爆死没者慰霊碑への献花を行いました。

また、広島市民から被爆の実相を伝える書籍や銅版で作った折り鶴の寄贈を受けるとともに、被爆体験証言を聴講しました。

さらに、小溝本財団理事長から平和首長会議の核兵器廃絶に向けた取組などについて説明を受けました。

六日（木）は、放射線影響研

究所を訪れ、研究員から放射線が人体に与える影響について講義を受けました。同研究所へのフェローズ訪問は、平成二十六年度に続いて二回目です。一行はとても熱心に聴講し、講義後には多くの質問がありました。

一行からは、非常に有意義なプログラムであったという感想が寄せられました。被爆の実相について理解を深めていただき、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を真摯に願う被爆地の思いを共有することができた三日間で

した。

（平和連帯推進課）

証言を聴講するなど、被爆の実相についての知識を深めました。

こうして、二月一日から、研修を修了した三十八人が新たに活動を開始しました。現在、二百二十人を超えるボランティアが、日々、ヒロシマの心々を伝える活動に励んでいます。当館へお越しの際はぜひ、ヒロシマピースボランティアの解説をご利用ください。

（平和記念資料館 啓発課）



原爆ドームを見学するフェローズ一行

## 第六回平和首長会議国内加盟都市会議総会の開催及び日本政府に対する「核兵器禁止条約」の早期実現に向けた取組の推進を求める要請文の提出

昨年十一月七日、八日に、第六回目となる平和首長会議国内加盟都市会議総会を、千葉県佐倉市において開催しました。

当会議は、平和首長会議の国内における取組の充実を図るため毎年一回開催しており、今回は全国から過去最大となる百十一自治体・百八十五人（うち首長四十九人）が出席しまし

た。

### 開会

平和首長会議会長の松井一實<sup>み</sup>広島市長が開会挨拶を行い、「核兵器のない未来を創っていくのは、私たち一人一人の『情熱』であり、平和への思いを共有し、『連帯』することから生まれる具体的な行動です。私たちは多様な価値観を認め合いながら、『共に生きる』世界を目指し、ともに努力していかねばなりません。」と呼びかけました。

### 佐倉市プログラムピースフロム佐倉

次に、佐倉市プログラム「ピースフロム佐倉」が行われ、総会出席者に加え多くの佐倉市民が参加しました。プログラムでは、佐倉市プロモーション映像上映、地球のステーション平和サート、佐倉市ゆかりの著名人や被爆者による平和メッセージ、国立歴史民俗博物館研究部の荒川章二教授による平和講演、佐倉平和使節団による活動報告、小学生による平和合唱が行われました。

### 会議Ⅰ（平和に関する取組事例の報告）

二日目の最初のプログラムとして、東京都の清原慶子三鷹市長、尾崎保夫大和市長及び佐藤一夫国立市長からそれぞれの自治体の平和に関する取組事例の報告をしていただき、加盟自治体における今後の取組に資するものとなりました。

### 会議Ⅱ（議案の審議、報告、意見交換）、会議Ⅲ（総括）、閉会

次に、松井市長が議長として議事進行役を務め、議案の審議等を行いました。

議案の審議では、まず、「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴え



第6回平和首長会議国内加盟都市会議総会で議事進行する松井広島市長(左)と田上長崎市長(右)

る核兵器廃絶国際署名」に対し平和首長会議として賛同・協力することについて、了承されました。また、日本政府に対する「核兵器禁止条約」の早期実現に向けた取組の推進を求める要請文の提出について了承されました。

続いて、第九回平和首長会議総会の開催等について事務局から説明を行いました。その後出席者による自由な意見交換を行い、今後の取組に資する多くの意見が出されました。

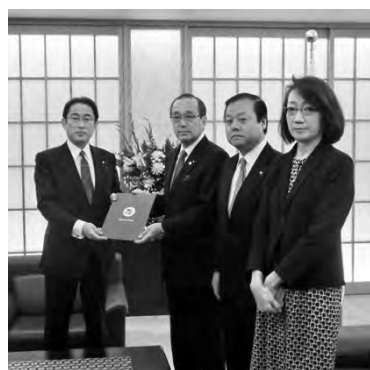
最後に、会議の概要等を盛り込んだ総括文書を採用して閉会しました。

### 日本政府に対する要請文の提出

総会での決定に基づき、昨年

十一月二十四日に、松井市長（平和首長会議会長）、黒田正代（長崎市東京事務所長（長崎市長代理）及び蔵和雄佐倉市長が外務省を訪問し、「核兵器禁止条約」の早期実現に向けた取組の推進について安倍晋三内閣総理大臣宛ての要請文を岸田文雄外務大臣へ提出しました。

要請文を受け取った岸田外務大臣は「平和首長会議の皆様のおしは、しっかりと受け止めさせていただきます。唯一の戦争被爆国だからこそ、核兵器国と非核兵器国の橋渡し役として主導的な役割を果たし、前進のために努力したい。世論形成が重要であるため、平和首長会議の協力・応援をお願いしたい。」と述べられました。（平和連帯推進課）



日本政府に対する要請文の提出（左から岸田外務大臣、松井広島市長、蔵佐倉市長、黒田長崎市長東京事務所長）

### 平和首長会議 国内加盟都市会議総会に合わせた原爆展の開催

平和記念資料館では、原爆被害の実相を伝え、核兵器廃絶の世論を醸成するため、平成二十八年十一月七日、八日に千葉県佐倉市で行われた平和首長会議国内加盟都市会議総会に合わせて、同市内において同月三日から十三日まで、原爆展を開催しました。

初日にはオープニングセレモニーを行い、佐倉市の蔵市長や当資料館の志賀館長などによるテープカットに続き、佐倉市の小学生二人による原爆詩の朗読が行われました。セレモニーの後には、志賀館長が蔵市長をはじめ多くの人を対象に展示解説を行いました。

展示会場では、被爆資料のほか、被爆の実相や核兵器の現状を伝える写真パネル、市民が描いた原爆の絵の展示などを行いました。来場者からは「過去を知り、学び、繰り返さないことが何より大切だと思う」となどの感想が寄せられました。

また、原爆展の一環として実施した川本省三さんによる被爆体験講話には、子ども連れの



志賀館長による展示解説の様子

方の参加も多く、皆さん熱心に聴講していました。東京大空襲を経験された参加者からは、「八十歳を過ぎてても活動する被爆者の姿を見て、またその証言を聴き、自分たちも後世に空襲の経験伝えていかなければ」という思いを強くした」との声が聞かれました。

平和首長会議国内加盟都市会議総会に合わせた原爆展は初めての開催でしたが、開催地の方々の平和への想いも知ることができ、有意義な展示となりました。

### 実施の概要

期間：平成二十八年十一月三日（木）～十一月十三日（日）（十一日間）

場所：佐倉市臼井公民館  
来場者数：千百十五人

（平和記念資料館 啓発課）



# 広島・長崎講座開設 大学への支援

広島市と長崎市は、被爆者のメッセージを人類共通の財産として学問的に整理・体系化し、普遍性のある学問として若い世代に伝えるため、国内外の大学での「広島・長崎講座」の開設・普及に取り組んでいます。

昨年十二月二日から六日まで米国イリノイ州シカゴ市のデュポール大学が実施した広島での平和学習に際し、本財団はプログラムの実施支援を行いました。



広島市長(前列右)とデュポール大学の学生

同大学は二〇〇五年以来、広島で平和学習を行っています。六回目となる今回は、ひろしま平

和大使である宮本ゆき同大学准教授及び学生の十九人が来広しました。

来広の前にシカゴ市で「ヒロシマ・ナガサキ原爆展」(昨年十月一日〜二十九日)が開催されたこともあり、学生達は大変意欲的でした。一行は平和記念公園、広島平和記念資料館、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館を見学し、岡田恵美子さんによる被爆体験証言を聴講しました。また、広島市長を訪問した後、広島経済大学の学生とも交流しました。帰国後には、メッセージを書き込んだ折り鶴が寄せられました。

せられました。広島での平和学習を通じ、一行は身近に原爆の実相を学ぶことができ、非常に有意義なプログラムとなりました。(平和連帯推進課)

## 広島大学と包括的 連携協力に関する 協定を締結しました

昨年十二月十二日(月)、本財団は、国立大学法人広島大学と、原子爆弾による被害の実相を広く伝え、平和な世界を実現する

## 資料調査研究会発表会 「原爆体験記」など、 研究成果を発表

平成二十八年十一月十九日(土)、広島平和記念資料館資料調査研究会の研究発表会が開催され、四人の研究者が発表しました。来場者は約九十人でした。

○直野(なおの)あきこ 子(こ)会員(広島市立大学広島平和研究所教授)  
「原爆体験記」の刊行と「原爆体験」の形成」と題し、広島市の募集で集まった「原爆

体験記」原本と、複数ある刊行本での記述を比較し、編集の傾向とその影響を報告しました。

○石丸(いしまる)のりお 興(こう)会員(広島諸事・地域再生研究所代表)

「GHQ(／SCAP)が推進した政策による日本の都市政策への影響等に関する研究」と題し、日本占領下の都市政策について報告しました。  
○静間(しずま)清(きよ)副(ふく)会長(広島大学大学院工学研究院特任教授)

「広島平和記念資料館所蔵の仁科(にこ)土(つち)壌(じやう)資料(しりょう)および黒(くろ)い(い)雨(あめ)を浴(あ)び(び)た(た)衣(い)類(るい)とフ(フ)ォ(フォ)ール(ール)アウ



発表の様子

ト雨域(あめ)について」と題し、資料館所蔵の黒い雨を浴びた衣類の放射能を新たに測定し、他のデータと比較した分析結果を報告しました。

○水本(みずもと)と(と)か(か)ず(ず)み 本(ほん)財(ざい)団(だん)長(ちやう) (広島市立大学広島平和研究所副所長)

「最新の核をめぐる動向と論調」と題し、二〇一五年NPT再検討会議後の現状と課題や、オバマ大統領の広島来訪の意味について解説しました。

なお、同研究会の研究成果は報告書にまとめられ、今年五月ごろに発行される予定です。

【お問い合わせ】  
平和記念資料館 学芸課  
☎(082)241-4004

## 包括的連携協力に関する協定調印式



調印式で握手を交わす小溝(こみぞ)理事(り)長(ちやう) (右)と越智(こし)学(がく)長(ちやう)

ための学術的な調査・研究等を相互に連携協力して行うことを目的として、包括的連携協力に関する協定を締結しました。

この協定は、本財団が平成二十六年度から広島大学の「地(ち) (知)の拠点整備事業(COC事業)」に協力する中で、双方が連携協力関係の有益性を強く認識したことから、締結する運びとなりました。

協定を締結した十二月十二日には、広島大学東千田キャンパスにおいて、本財団の小溝(こみぞ)理事(り)長(ちやう)と広島大学の越智(こし)学(がく)長(ちやう)らが出席して調印式を行い、その後、広島大学の木原(きはら)副(ふく)学(がく)長(ちやう)と平和記念資料館の志賀(しか)副(ふく)学(がく)長(ちやう)による基調講演を行いました。この協定の締結により、本財団は、平和記念資料館の展示や

所蔵資料の調査研究などの面において、広島大学の組織的な学術的協力を得やすくなります。また、本財団が取り組む事業の海外への発信力を高めるために、広島大学の国際的な人材やネットワークの面からも支援を得やすくなります。

一方で本財団からは、広島大学の平和科目に講師を派遣するなど、大学での平和に関する学びの場づくりに積極的に協力していきます。

本財団では今後、具体的な協力事項について広島大学と協議を行い、本格的に協力体制を整えていきます。

(平和記念資料館 学芸課)

### アメリカ議会図書館などで写真資料の収集を行いました

平和記念資料館では、これまで被爆資料や遺品、写真などの被爆に関する様々な資料を調査し、収集・整理してきました。

平成二十八年十一月から十二月にかけて職員二人をアメリカに派遣し、議会図書館(ワシントンDC)、海軍歴史遺産部(同)、国立空軍博物館(オハイオ州デイトン)の三機関で原爆に関する



エノラ・ゲイから撮影したきのご雲  
アメリカ議会図書館 Prints & Photographs Division 所蔵

贈を受けた写真約七百八十点を収集。航空機から撮影された被爆後の広島の写真や、資料館開館直後の平和記念公園内の写真などが含まれています。

#### 国立空軍博物館

原爆投下部隊や元軍人などから寄贈された写真約六百七十点を収集。航空機から撮影された被爆後の広島の写真などがあり、エノラ・ゲイ乗組員のサインの入った写真が一枚含まれていました。

る写真資料の収集を行いました。これらの機関で資料館が調査を行ったのは初めてです。

#### 議会図書館

廃刊となった新聞・雑誌の旧蔵写真や、原子力関係の組織から移管された資料から約七百十点を収集。これまでに未見のエノラ・ゲイ(原爆投下機)から撮影されたきのご雲や、投下後に記者会見を行う原爆関係者の写真も含まれていました。

海軍歴史遺産部 海軍の部隊からの移管資料や元軍人から寄

#### 平成29年追悼平和祈念館企画展

### 原爆体験記

—ヒロシマ原点の記録 その2—

期間 平成29年1月1日～12月29日  
場所 追悼平和祈念館 地下1階  
情報展示コーナー  
入場 無料

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館では、被爆の実相を伝えるため、毎年テーマを定めて企画展を開催し、被爆体験記や追悼記などを展示しています。

被爆から五年後の昭和二十五年、広島市は核兵器のない平和な世界を築こうと初めて市民から原爆体験記を募集し、多数の応募がありました。まとめられた「原爆体験記」は国の内外に広く配布し、原爆の悲惨さを訴えるはずでした。

前田さんは当時、七歳。学校の代わりとなっていた光隆寺で被爆しました。

……なんと運の良いことだろう。こんなに大そうどの最中に丁度、動員から逃げ帰って来ていたお兄さんに出合った。僕はやけどをして頭が大きくはれていたのですが、お兄さんは僕とは気がつかなかったらしく、僕が「お兄ちゃん」と呼んでも「正弘か」と問いかえされた。その時僕はうれしくてうれしくてたまらなかった。そこからはすぐ背負ってもらって逃げたが、けがをしているせいか頭が痛かった。



「原爆体験記」  
(昭和25年(1950年) 広島平和協会)

日本はまだ占領下にあり、朝鮮戦争の勃発による東西冷戦の激化を受け、八月六日の平和祭はGHQの指示で直前に中止となり、「原爆体験記」も広く配布されず倉庫に眠ったままとなりました。

被爆わずか五年後に書かれたヒロシマ原点の記録である生々しい記憶を基に記された体験記から、戦争や原爆の悲惨さ、平和への思いを伝えます。

今回、展示している被爆体験記の中から、前田正弘さんと北山二葉さんの体験記(抜粋)をご紹介します。



北山さんは、当時、三十三歳。建物疎開の作業中に被爆し、親戚の家に逃れましたが、そこで生死の境をさまよいます。

……傷らしい傷もなかった夫は帰って三日目の十三日の朝血を吐きながら、明日をも知れぬ妻と三人の愛し児を残して淋みしく死んでいった。ああ思へば十六年連添った夫婦でありながら妻に死水もとって貰へづ逝った夫、仕事のために生れて来た程仕事のすきだったのにこれから多くのなすべき事を残して逝った夫の気持ちを考えてとまらぬ気がする。

私の枕元に「お母ちゃん」と云って坐った坊やの声、あの時の血の出るやうな悲しさは今思ひ出しても涙があふれて来る。「ああ哀れな子たち。私は死んではならない、この子たちを孤児にする事が出来るものか」私は一心に夫の霊に祈った。何度も何度も絶望を宣告されながら私は不思議に一命を



広島市が募集した原爆体験記の原稿 (所蔵：広島市公文書館)

とり止める事が出来た。…… 体験記の続きは、館内の企画展会場と体験記閲覧室で読むことができます。また、当館のホームページ(<http://www.hiro-tsuitokinendan.go.jp/>)に三人の方々の体験記を掲載しています。会場では、体験記とともに、執筆者の被爆資料や原爆体験記を募集した昭和二十五年前後がどのような時代であったかを紹介する新聞記事等を展示しています。また、体験記を、関連する写真や絵を用いた映像と音声

で紹介しています。この映像については、過去の企画展で制作したものと合め、体験記閲覧室で視聴することができます。映像は平和学習資料として、DVDでの貸出しも行う予定です。ご希望の方は当館までお問い合わせください。 体験記を通じて、被爆者の「こんな」「ことば」にふれてください。

【お問い合わせ】 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 (0822)54336271

### 平和記念資料館からのお知らせ 東館リニューアルオープン 及びウェブサイトの リニューアルについて

平和記念資料館東館は、展示内容の更新のための改修工事及び耐震工事を行ってきましたが、平成二十九年四月二十六日(水)にリニューアルオープンする運びとなりました。

リニューアルオープン後の東館では、「導入展示」、「核兵器の危険性」、「広島歩み」の三つの展示ゾーンのほか、被爆者証言ビデオコーナーを設置しています。

また、タッチパネル式の大規模な検索装置(メディアテーブル)により、展示に関連する事柄について、より深く調べていただくことができるようになります。東館リニューアルオープンに合わせて、渡り廊下及び本館の改修工事を行うため、本館を閉館します。

本館閉館中は、東館一階のフリースペースで、本館で展示していた資料の一部を展示します。工事期間中は、ご不便をおかけしますが、ご理解・ご協力の程よろしく願います。

本館の改修工事終了後、平成三十年七月に全館リニューアルオープンする予定です。

なお、東館のリニューアルオープンに合わせて、当館のウェブサイトもリニューアルします。リニューアル後のホームページのURLは <http://hpmuseum.jp/> となります。

#### 【お問い合わせ】

■東館リニューアルオープンについて  
平和記念資料館 学芸課まで  
(0822)2414004

■ウェブサイトのリニューアルについて  
平和記念資料館 啓発課まで  
(0822)24278266

## 被爆体験の継承にご協力を

広島平和記念資料館と国立広島原爆死没者追悼平和祈念館は、被爆体験を継承するための貴重な資料の収集を行っています。皆様のご協力をお願いいたします。

●被爆資料―被爆された時に身につけられていた衣服など、被爆の事実を直接物語る実物資料。

●氏名・遺影―原爆死没者の氏名・遺影(氏名のみ)の登録も可能。

●被爆体験記―被爆者の体験記や、遺族・友人の追悼記など。

#### 【お問い合わせ】

■被爆資料について  
広島平和記念資料館 学芸課  
(0822)2414004

■氏名・遺影、体験記について  
国立広島原爆死没者追悼平和祈念館  
(0822)54336271

# 市民が海外文化を堪能

## 「姉妹・友好都市の日」記念イベント

広島市は海外の姉妹・友好都市提携六都市ごとに「姉妹・友好都市の日」を設けて、記念イベントを開催しています。二〇〇三年からは、この事業を本財団が市から受託して実施しています。各イベントの進行役は、広島市が市民に委嘱したヒロシマ・メッセンジャーが務めています。



三浦琉璃さんによる中国民族舞踊

昨年十月二十三日(日)、JMSアステールプラザにて記念イベントを開催しました。主催ー平成二十八年度重慶の日実行委員会(日本中国友好協会広島支

部や本財団など六団体で構成)まず来場者は、中国菓子(餅)の月餅または麻花(マホワ)とウーロン茶を味わいました。会場内には、重慶市から贈られた菊の展示や和紙ちぎり絵・折鶴(オリガミ)の展示のほか、中国語で話してみよう、和紙ちぎり絵、中国茶が体験できるコーナーも設置し、中国文化を楽しみました。

開会セレモニーでは、実行委員長、広島市長が挨拶され、重慶市長から届いたメッセージが披露されました。

その後、ヒロシマ・メッセンジャーの田野さんと陳静さんが重慶市の歴史や街の様子、食文化等について写真を使って分かりやすく紹介し、続いて、重慶市のクイズや中国語のミニ講座を行いました。

記念ステージでは、日本中国友好協会広島支部の皆さんによる太極拳が披露され、来場者も一緒に優雅でゆったりとした太極拳の動きを体験しました。続いて、三浦琉璃さんによる中国民族舞踊の披露や、趙栄春さんによる二胡の演奏を行い、華やかな衣装の踊りや二胡の音色を堪能しました。

イベントの最後には、重慶市からいただいた記念品等の抽選会を行いました。

約百九十人の来場者は、様々な文化の体験を通して、楽しみながら重慶市や中国への理解を深めていました。

## ホノルルの日



華やかなフラのステージ

昨年十一月五日(土)、広島駅南口地下イベント広場で記念イベントを開催しました。主催ー平成二十八年度ホノルルの日実行委員会(広島日米協会や本財団など八団体で構成)

まず、来場者をフリースタイル「カヒコ」で始まり、その後、実行委員長、広島市副市長、ピデオによるホノルル市長の挨拶がありました。

続いて、ヒロシマ・メッセン

# 「姉妹・友好都市の日」記念イベントで活躍 ヒロシマ・メッセンジャー決定

広島市は、海外の六姉妹・友好都市ごとに「姉妹・友好都市の日」を定め、各都市との交流の拡大と友好親善の促進を図っており、都市ごとに各二人、計十二人をヒロシマ・メッセンジャー」として委嘱しています。

このメッセンジャーは、二〇一七年の「姉妹・友好都市の日」記念イベントの企画・立案への参画、司会進行を行うなど、姉妹・友好都市について市民の理解を深める活動に携わります。(国際交流・協力課)

【活動依頼期間 本年1月1日~12月31日】

ホノルル市	畑井 淳一 (はたい じゅんいち)	本石 瑠 るり (もとishi るり)
ボルゴグラード市	神門 知令 (かんど ちはる)	エカテリナ シマキナ
ハノーバー市	ザレンバ カイ	橋本 幸枝 (はしもと ゆきえ)
重慶市	李 辰瀟 (り シンショウ)	劉 静 (リュウ セイ)
大邱広域市	高原 千明 (たかはら ちあき)	渡邊 優子 (わたなべ ゆうこ)
モントリオール市	大崎 宏予 (おおさき ひろよ)	倉橋 智子 (くらはし ともこ)

した。

最後には、来場者も一緒に全員で「愛するハワイ」を合唱し、ハワイの雰囲気を感じてもらいました。

会場内では、ハワイアングッズの展示販売やリボンレイの制作体験もあり、約五百人の市民が、ホノルル市について楽しみながら理解を深めていました。

(国際交流・協力課)

続いて、ヒロシマ・メッセン



# 国際交流・協力の日 2016

昨年十一月二十日(日)、広島国際会議場、平和大通り緑地帯などを会場に開催されたこのイベントは、今回で十七回目を迎えました。

広島市や近郊で国際交流や国際協力活動をしている市民団体や企業六十九団体が、異文化理解や地球環境、多文化共生、日本文化体験など三十七の多彩な事業を催し、延べ約九千五百人が来場しました。

参加した外国人も日本人も、世界各国の文化に触れる一日となりました。(主催―本財団。共催―独立行政法人国際協力機構中国国際センター、公益財団法人ひろしま国際センター、広島市)

## トークショー「科学界のインディ・ジョーンズになるまで」

ゲストスピーカーに広島大学大学院生物圏科学研究科の長沼毅教授をお招きし、「科学界のインディ・ジョーンズになるまで」を二時間たっぷり語っていただきます。世界各地を飛び回っている長沼教授は、辺境と呼ばれる「いきにくい」場所

の生物を研究しています。「いきにくい」とは「行きにくい」と「生きにくい」の二つの意味があるということです。そんな極限環境で暮らしている生物の中にはがん予防研究でも注目されているチューブワームという不思議な生き物もあり、来場者はスクリーンに映し出される写真に興味津々の様子でした。長沼教授のお話には、チリやチュニジアの砂漠、ウガンダ山頂の氷河からベネズエラの高地にある洞窟、海底火山に南極、北極、そして地球を飛び出し火星や木星の第二衛星「エウロパ」など、次々と様子の異なる辺境の地が出てきました。

## 国際交流・協力活動の紹介

市民団体等活動紹介コーナーでは十六団体が活動の紹介ブースを設け、それぞれの国際交流・協力活動について紹介しました。このほかにも、会場には公的団体や市民団体、NGO団体、大学生、企業などがブースを設け、参加者は、写真などの展示を見たり、民族衣装を着たり、クイズに参加するなど、楽しく交流しました。また、青少年や大学生などによる国際交流・協力活動の発表や報告会も行われました。

## 外国文化・日本文化の紹介と体験

外国文化の体験では、イギリスの紙花作りや中国の切り絵、中国結び(中国式組み紐)の体験コーナーを催し、日本伝統文化の体験では、着物の着付けや茶道、いけばな、書道、箏の体験コーナーを催しました。外国人も日本人も、各国の文化を直接体験し、それぞれの素晴らしさに触れました。



書道体験をするアジアの留学生

## 世界の料理と民芸品バザー

国際会議場南側の平和大通り緑地帯では、「ひろしま国際村世界の屋台」と称し、十九団体が世界のような屋台料理を販売しました。また、「国際協力バザー」会場も十三団体が参加し、各国の民芸品などを販売しました。

このほか、イベント会場をまわってクイズに答えるとプレゼント

ントがもらえるクイズラリー、大人から子どもまで異文化体験を楽しめる「地球ひろば」、クラフト体験をしながら広島市の姉妹・友好都市について学べるコーナー、世界の舞踏を披露する屋外ステージ、外国人のためのVISA無料相談コーナー、広島市内にある日本語教室を紹介する展示コーナー、世界のコインを寄贈し開発途上国の子どもたちを支援するコーナーなど、各会場は大いに賑わい、参加者は、国際交流や国際協力について、見識を深めていました。また、このイベントには、多くの市民や留学生がボランティアスタッフとして参加し、一緒に盛り上げていただきました。(国際交流・協力課)



国際協力バザーの様子

## 「ひろしま留学生基金」にご協力を

本財団では外国人私費留学生支援のため、皆様から寄せられた寄附金を「ひろしま留学生基金」として積み立て、その利息等により「ひろしま奨学金」を支給しています。しかし、昨今の金利低下により、財源は大変厳しい状態となっております。「ひろしま留学生基金」への皆様の温かいご支援をお待ちしております。

## 基金へのご寄附に関するお問い合わせは

(公財)広島平和文化センター  
国際部国際交流・協力課  
☎730-0811  
広島市中区中島町一番五号  
(広島国際会議場三階)  
☎(082)242-8879

## 「ひろしま奨学金」とは

広島市内の大学・大学院に在学し、かつ広島市内に居住する外国人私費留学生を対象に、昭和六十三年度事業を開始し、現在では毎年三十人に月額三万円を支給しています。



プロフィール

〔まつうら しんや〕
昭和60年 山口大学医学部卒業
平成2年 山口大学大学院博士課程修了 医学博士
平成3年 日本学術振興会 特別研究員
平成5年 英国セントメアリーズ病院医学校 訪問研究員
平成7年 原爆放射線医学科学研究所 助手
平成11年 同上 助教授
平成14年 同上 教授
平成28年 原爆放射線医学科学研究所 所長

放射線が人体に与える影響について

広島大学原爆放射線医学科学研究所 所長
松浦 伸也

はじめに

昭和二十年八月六日に広島に原子爆弾が投下されて七十余年が経過しました。原爆投下国の現職大統領であるオバマ氏が被爆地広島を初めて訪問した平成二十八年五月二十七日は、人類にとって歴史的な一日となりました。オバマ氏は演説で科学技術の二面性に言及し、科学技術の進歩には社会の進歩を伴う必要があり、科学技術のみが先行するとそれによって人類が破壊することもあり得ることを被爆地広島が教えてくれたと述べました。原爆の最大の特徴は、通常の爆弾では発生しない大量の放射線が地表に放出されて、人体に被ばくによる障害を及ぼすことです。本寄稿ではとくに放射線が人体に与える影響について解説したいと思います。

急性障害と晩発性障害

放射線を大量に浴びると急性障害が現れます。急性障害は、前駆期・潜伏期・発症期・回復期の四期に分けられます。被ばく四十八時間以内には、自律神経系の経路を介して全身脱力・嘔気・嘔吐などの初期症状が現し、この期間を前駆期と呼びます。初期症状までの時間は高線量ほど短く、少ない被ばく線

量では明らかな症状を示さないこともあり。その後、倦怠感や疲労感の他は無症状となる期間があり、これを潜伏期と呼びます。放射線に抵抗性の細胞が生き残って機能を果たしているために無症状になるとされています。約三週目から二ヵ月後にかけて脱毛や口内炎、さらには造血障害による免疫の低下や出血傾向、消化管障害による嘔吐、下痢などを起こし、これらが組み合わさって重症感染症や吐血、下血を来します。この期間を発症期と呼びます。

放射線を被ばくした細胞は細胞分裂が異常になるので、細胞が活発に分裂しているような組織・臓器は放射線に弱く、高感受性です。組織にはとくに盛んに分裂している部分があり、ここに幹細胞が存在します。幹細胞は組織を構成する細胞の元になる細胞で、一つの幹細胞が分裂すると、できた二つの細胞の一つは幹細胞として残り、もう一つは組織の細胞に分化します。幹細胞はとくに放射線に弱く、高感受性です。

放射線が当たると幹細胞が傷害されて、その線量に応じて紅斑や脱毛、水疱形成、皮膚潰瘍を起こします。線量が高い場合は壊死も起こります。

小腸も放射線に高感受性です。小腸の内腔は小腸絨毛とよばれる細かな突起に覆われています。この小腸絨毛の間には陰窩と呼ばれるくぼんだ部分があり、この底に幹細胞が含まれています(図①)。幹細胞やそれから生まれた若い細胞が分裂し、

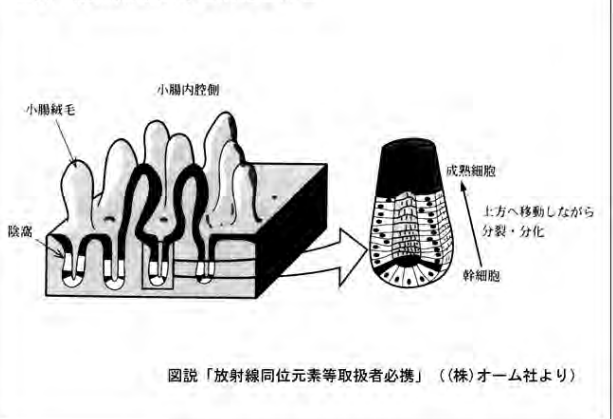
消化吸収を司る細胞に分化して上方へどんどん移動して絨毛を形成します。大量の放射線が小腸に当たると陰窩にある幹細胞や若い細胞が傷害されて、絨毛が十分形成されなくなり、そのために小腸の消化吸収機能が失われて下痢や下血が起こります。

造血幹細胞も放射線に高感受性です。骨髄には造血幹細胞がたくさん含まれており、この幹細胞から赤血球、白血球と血小板が作られます。この造血幹細胞も放射線感受性が高く、骨髄が放射線被ばくすると、まずリ

ンパ球が減少し、次に白血球と血小板が低下します。リンパ球が減るとウイルスなどに対する免疫力が低下します。白血球が減少すると細菌などの感染症にかかりやすくなります。血小板が減少すると出血が止まりにくくなります。被ばく後三ヶ月を過ぎると放射線障害も回復傾向を示し、この時期を回復期と呼びます。

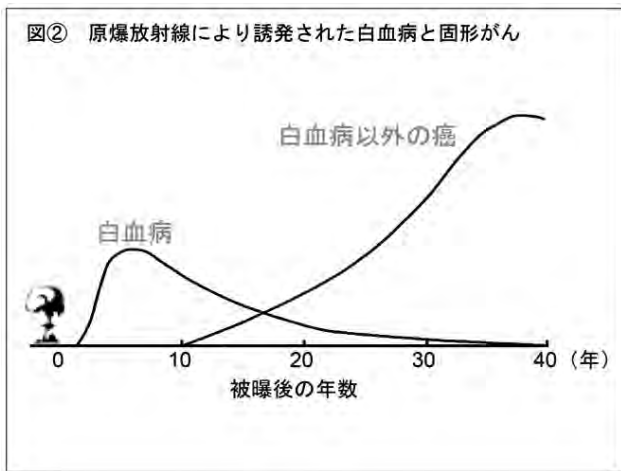
急性障害の症状が落ち着いてしばらく経つと、晩発性障害が出現します。晩発性障害の代表的なものは「がん」です。広島・長崎の原爆では被爆後六〜七年

図① 放射線被ばくと消化管障害

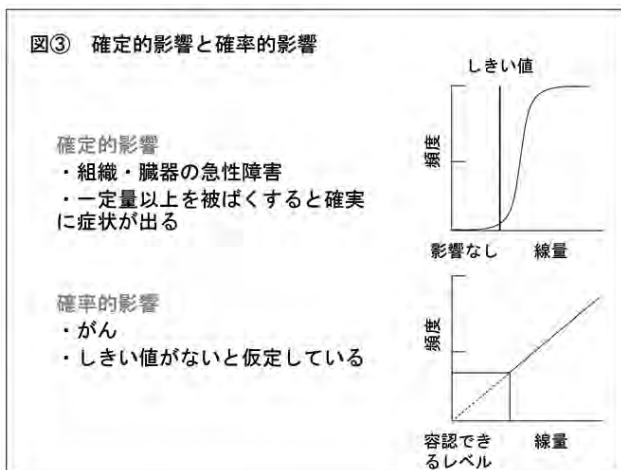


図説「放射線同位元素等取扱者必携」(株)オーム社より





図② 原爆放射線により誘発された白血病と固形がん



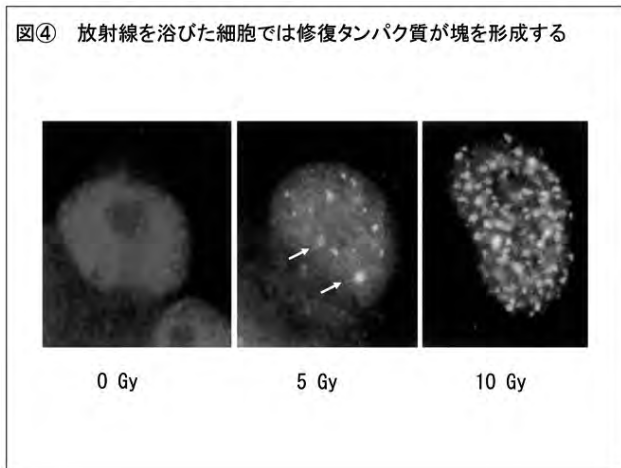
図③ 確定的影響と確率的影響

確定的影響

- ・組織・臓器の急性障害
- ・一定量以上を被ばくすると確実に症状が出る

確率的影響

- ・がん
- ・しきい値がないと仮定している



図④ 放射線を浴びた細胞では修復タンパク質が塊を形成する

の潜伏期を経て白血病が多発しました(図②)。白血病のピークが過ぎた後、固形がんが潜伏期十〜四十年かけて線量に依存して増加しました。被爆後七十年以上が経過しましたが、現在でも被爆者の固形がんの発がんリスクが高いことが知られています。

確定的影響と確率的影響

放射線の人体影響は、確定的影響と確率的影響の二種類に分けられます(図③)。確定的影響には、放射線による白内障や皮膚、骨髄における造血能力の低下、消化管障害があります。確

定的影響にはしきい値が存在し、しきい値以下の線量を被ばくしても影響はありません。しきい値を超えた線量を被ばくと病気を発症します。横軸に放射線の被ばく線量を、縦軸に病気の発症頻度をとってグラフを作ると、確定的影響では図③の上側のグラフのようにS字のカーブを描き、一定限度を超えた放射線を浴びるとすべての人が発症します。一方、晩発性障害の代表的な「がん」は確率的影響に分類されます。確率的影響では放射線被ばく線量が増えるにつれて発病リスクが増します。固形がんの場合、図③の下

側のグラフのように直線的に発生頻度が増します。しきい値のある場合には、それを超えないように放射線量を抑えれば、放射線障害は発生しません。一方、放射線防護の観点から、放射線発がんにはしきい値はないと国際放射線防護委員会(ICRP)では考えています。これを「直線しきい値なし仮説(LNT仮説)」と呼びます。すなわち、いくら低い線量であっても発がんのリスクがあると仮定しているのです。容認できるレベルまで被ばく線量を抑える必要があります。しかしながら、確率的影響の「がん」のリスクについては、

放射線障害の仕組み

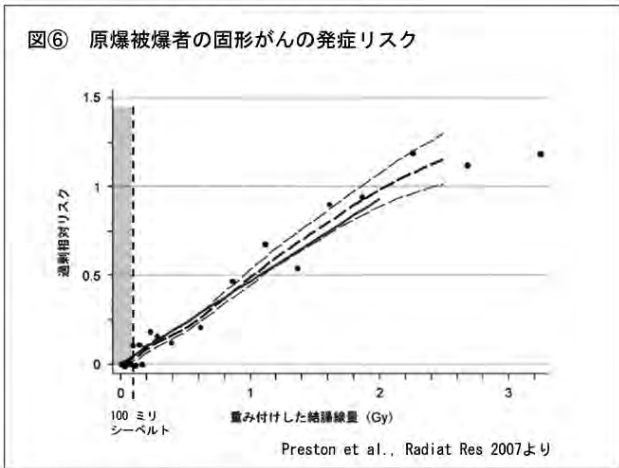
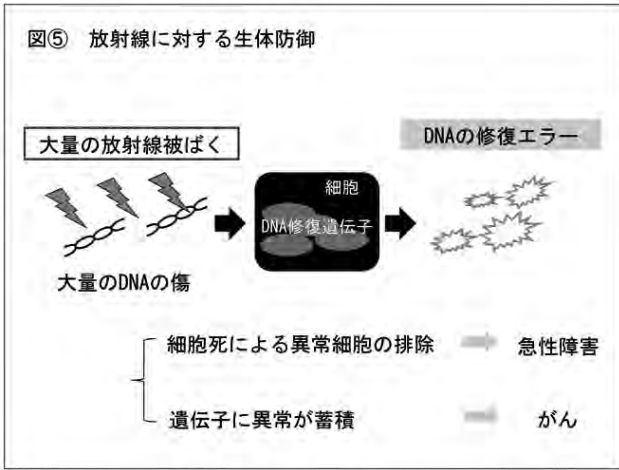
後述するように、特に低線量域において多くの課題が残されています。

細胞の中では、遺伝子DNAからメッセンジャーRNAが作られ、その暗号を翻訳してアミノ酸配列に翻訳することによって様々なタンパク質が作られて人体が構成されています。放射線は人体を構成する様々な生体分子に傷をつけますが、とくにDNA二重らせんが二本とも切断したときに細胞に影響が及びます。これに対して、細胞にはDNAの傷を修復しようとする能力が備わっており、DNA修復エラーが溜まっていくと、こういって細胞は細胞死を起こします。その結果、放射線感受性の高い臓器・組織から機能が傷害されて、急性障害を引き起こします。一方、DNAの修復エラーを持ちながらも細胞が生き延びてしまうこともあり、この場合にはDNA上の遺伝子に異常が蓄積されることによって、がん細胞になることがあります。これが晩発性障害の「がん」の仕組みと言われています。

放射線を照射して、特殊な染色方法を用いて細胞の核を観察したものです。放射線を浴びた細胞では、修復タンパク質が黄緑色(紙面では白色。ウェブ版ではカラーでご覧いただけます。)の塊を形成していることが分かります。この塊の部分で、DNAの傷が元通りに修復されています。少量の放射線被ばくで生じたDNAの傷は、細胞の修復タンパク質によって元通りに修復されて細胞は正常に維持されています。一方、大量の放射線を被ばくすると、DNAに多数の傷が生じてしまい、こうした多数の傷は修復タンパク質によって修復することができないために修復エラーが蓄積されていきます(図⑤)。DNA修復エラーが溜まっていくと、こうした細胞は細胞死を起こします。その結果、放射線感受性の高い臓器・組織から機能が傷害されて、急性障害を引き起こします。一方、DNAの修復エラーを持ちながらも細胞が生き延びてしまうこともあり、この場合にはDNA上の遺伝子に異常が蓄積されることによって、がん細胞になることがあります。これが晩発性障害の「がん」の仕組みと言われています。

**低線量放射線・低線量率放射線による影響**

これまで述べたように、大量に放射線を一度に浴びると確実に急性症状が現れ、後になんかを発症するリスクが高くなります。一方で、被ばく線量が一〇〇ミリシーベルトよりも少ない低線量の被ばくでの発がんリスクの理解は、混沌としています(図⑥)。国際放射線防護委員会(ICRP)は、どんなに少ない被ばくでも、線量に応じた健康影響があると仮定して、「直線しきい値なし仮説(LNT仮説)」を提唱し、より安全側にたって身を守る防護モデルとし



て多くの研究者から支持されています。しかし、実際の影響が直線になるのかどうか異論も多く出されており、低線量域では細胞のDNA修復能によりDNAの傷が元通りに修復されるため健康リスクを生じないとの考え方や、これとは反対に、放射線で傷ついた細胞は放射線を浴びていない周辺の細胞にも影響を及ぼすために、低線量域ではがんリスクがより高くなるとの主張もあります。

現在の放射線防護の考え方は、放射線被ばく量は積算線量を元にして健康リスクの推定がなされています。しかし、放射線の被ばく線量が同一でも、被ばく時間に違いがあると生物影響が異なることがわかっています。すなわち、低線量被ばくは「高線量率」低線量被ばくと「低線量率」低線量被ばくに分けられます。「高線量率」低線量被ばくは、X線やCT検査などの医療放射線被ばくが代表的です。一方「低線量率」低線量被ばくは、低い線量の放射線を長時間持続して被ばくする場合で、積算すると高線量になることもあります。国際線の飛行機や自然放射線が高い地域などがこれに当たります。放射線のがんリスクは、広島・長崎の原爆の疫学調査に基づいて

調査に基づいて推定されていますが、原爆の「超高線量率」高線量被ばくのデータを一律に低線量域に当てはめて良いものかとの議論もあります。豪雨と小雨で土砂災害の程度が異なるように、「高線量率」低線量被ばくと「低線量率」低線量被ばくでは生物影響

が異なる可能性も考えられており、今後解決すべき重要課題の一つです。大規模な原爆疫学研究によっても一〇〇ミリシーベルト以下の低線量放射線被ばくの人体影響は未解明です。このため、科学的根拠に基づく低線量・低線量率放射線影響評価のブレークスルーが求められています。広島大学原爆放射線医学研究所、福島県立医科大学ふくしま国際医療科学センターは、ネットワーク型共同利用・共同研究拠点「放射線災害・医科学研究拠点」に共同で申請して、文部科学省により認定されました。三

大学(広島大学原爆放射線医学研究所が中核拠点)は、昨年四月から共同利用・共同研究の拠点活動を開始し、低線量放射線影響とリスク研究などの研究課題に取り組んでいます。

**最後に**

広島大学は、被爆地広島に開学した大学として、平和を希求する人材を輩出する使命を担っており、その取組みとして、「平和科目」を開講して広島大学の学生に平和について考える機会を提供しています。私自身も平和科目「医学から見た戦争と平和」の講義を担当させていただいております。さらに新しい取り組みとして、広島大学と広島平和文化センターが連携して学術調査や研究を実施することとなり、昨年十二月に広島大学で、越智光夫学長と小溝泰義理事長が協定書に調印されました。この協定により、広島大学の学生を対象とした平和教育の充実や、同資料館の資料収集の強化や共同研究などでさらなる連携を深めるとともに、広島平和文化センターと原爆放射線医学研究所が保有する被爆資料について共有する取組みを検討し、劣化が激しい被爆資料のデジタル化やアーカイブ化を共同で進めて資料の再評価につながることを目指します。原爆放射線医学研究所も、こうした取り組みを通じて平和の思いを世界に発信していきたいと考えています。

(平成二十九年三月寄稿)

**【参考文献】**

一、「原爆放射線の人体影響 改訂第二版」(放射線被爆者医療国際協力推進協議会編) 文芸堂 二〇一二年五月

二、「放射線の基礎を学ぼう」(山本修) 文芸社 二〇一六年六月